

『郷土に想いをよせる 「同窓会」モデル化事業』

ー川 内 村ー



うつくしまふくしま未来支援センター

実施の目的



平成23年3月11日に発生した地震・津波、そして原発事故に伴い、被災地域の多くの子どもや保護者が県内外へと避難した。震災前は、郷土のよさにふれながら、自分を取り巻く、ひと・このと・ものと関わり合いを深めることが当たり前のようできていた。しかし、「もう一度同じクラスだった友だちと一緒に学習したい」「もう一度あの町のあの場所に行きたい」「もう一度あのお祭りに参加したい」と、郷土に想いをよせることが「夢」として語られる現状にある。

当事業は、今一度、郷土の良さを感じたり見つめ直したりすることができるような「同窓会」を実施し、これをモデル化し県内各市町村へ提供するものである。

実施のポイント



- ・実施対象地域の実態の応じた事業の実施(計画・方法・内容において)
- ・児童生徒・保護者が安心して参加することのできる場での実施(猪苗代)
- ・児童生徒が自主的・主体的に活動することができるような教育的支援の実施
- ・郷土に想いをよせることができる、郷土(地元)の住民や伝統芸能とのふれあいの場の設定
- ・県内外避難者のストレスの軽減を図ることができる場の設定(保護者会の設定)

11/17（土）プログラム(一日目)

	児童・生徒	保護者
11：45	自然の家到着	自然の家到着
12：00	受付開始 昼 食	受付開始 昼 食
13：00	自由時間	自由時間
	自由時間	
13：30	開会式及び オリエンテーション	
14：00	川内に郷土に想いをよせて ・ 川内のよさをみつめよう ・ 川内の伝統芸能を学ぼう ・ 体験してみよう	
17：00	夕べのつどい	
17：30	夕食	
18：30	川内村のお祭り 「川内甚句」「BON・DANCE」を踊ろう	
20：00	入 浴	
21：30	児童・生徒就寝	

11/18（日）プログラム(二日目)

	児童・生徒	保護者
6 : 10	起 床	
6 : 25	清 掃	
7 : 00	朝のつどい	
7 : 30	朝 食	
8 : 10	帰り支度して荷物を研修室 1 へ	
8 : 30	自由時間 ～ 思い出缶作り～	
9 : 00	ボランティア企画	保 護 者 会
10 : 00	みんなでつながろう ～ 芋煮会～	
12 : 30	自由時間	
13 : 45	～ また会う日までの約束～（解散式）	
14 : 15	出 発	

実施の効果



- ・ 安心できる場で安心できる仲間と一緒に過ごすことによって、子どもも保護者も自分らしさを取り戻し、新たな環境においても踏ん張ろうとするエネルギーを得ることができる。
- ・ 郷土の伝統や文化・人とふれあうことによって、郷土に心を寄せることができる。
- ・ 地域の人々とふれあうことによって、郷土に関わる情報交換・共有をすることができる。
- ・ 保護者が会話をすることによって、情報の交換や保護者のストレス軽減を図ることができる。
- ・ 自主的なプログラムの作成や参加を通して、児童生徒の自主性や自己肯定感等を高めることができる。
- ・ 事業をパッケージ化し、各自治体へ提案することにより、他の地域において同様の事業が実施されることが期待できる。